

事業名【担当課】

20.清掃事業【環境課】

全体に対する意見・提案等

どうしても「燃えるごみ袋」増額ということだけをとらえられてしまいます。ごみを削減するというよりは、外部評価の際に話題になった、『SDGs』『カーボンニュートラル』の視点から、リサイクル率を高める視点での活動・周知も必要と思います。

『ごみの減量がなぜ必要なのか』ということ、改めて議論するなどして、市民への意識付けを行う前に、ごみ袋の値上げによる減量効果の部分が先走ってしまっているように感じます。確かに、ごみ袋値上げによる効果はあると思いますが、このような効果は一時的なものであると思いますし、やはり、真の意味で、ごみ減量を果たそうと思うと、『なぜ、今、減量が必要なのか』そして『今減量しないと、将来どんな弊害等が生じるのか』ということ、市民に訴え理解してもらってこそ、本当の意味での減量が成っていくと思います。よって、時間と労力がかかるとは思いますが、是非その点に関しての周知広報活動を強力に推進することも、急がば回れではありませんが、今必要ではないかと悪みます。

課題に対する意見・提案等

カレンダー、ガイドブック、ホームページ、アプリ等、ごみの分別収集に関する情報発信に努めていること、またエコハウスの増設を行い、ごみの出しやすさに工夫を重ねていることを評価したい。情報が広く行き渡るためには、継続的に発信し続けることが今後も大切であるだろう。たい肥等の取り扱いについても模索中であるとの回答を得ることができたため、有効活用することのできる道を検討し続けてほしい。さらなるごみ減量対策のための可能性として、学生アパートで一人暮らしをする大学生に向けたごみ分別や減量のための意識作りと負担軽減のために、以下の提案をしてみたい。1) ごみ減量講座を小中学校以外にも、高校や大学において実施する。2) 大学と連携し、リサイクルステーションを学内に設置する。3) 学生アパートの管理会社と連携し、共有スペースに資源ごみの回収ボックスの設置を呼びかける。瓶、缶、ペットボトルの他、雑紙置き場やシュレッダーの設置ができると良い。(ひとりひとりが少量のごみのために分別を適切に行ったり、異なる種類のごみ袋を買うのは負担であるかもしれず、もえるごみ袋の中に再生可能な資源などを安易に入れこむのではないかと思う。)

成果指標である家庭系1日1人あたりのごみ排出量はH30年度以降、目標を達成できていない。また、コロナ禍でごみ排出量が増えている。ごみ袋の増額に向け昨年度は32回の意見交換会、27回のごみ減量出前講座が行われた。今後もこうした取り組みが必要とされるが、地球規模での環境問題から地域でのごみ減量の意味まで多面的なアプローチが必要である。また、ごみ減量のためにごみの分別が容易に分かるための工夫が必要であり、現在普及しているアプリのいっそうの普及、視覚的に見てすぐ分かるようなごみ袋へ

の表示等が有効であると思われる。

ごみの分別などに若い方が興味を持って取り組める様にごみ袋のプリントなど工夫をこらすのも良いのでは。生ごみの処理など家庭の意識を高めてもらうためのPRが必要。ごみは生活パターンによって量も違って来る為、ごみの減量の目的を分かりやすく伝えていく事が必要かと。